# H22健全で豊かな森林づくりプロジェクト　フォローアップ委員会　フォローアップシート

**◆達成度に関するアドバイス**

・降雪の影響により低調だった木材生産実績を除き、概ねプロジェクトは事業計画どおり進捗しています。ただし、事業計画に記載の提案事項（新規導入システム；2tトラック2台による小運搬、作業効率の検証等）が一部未着手です。今後の本格的なプロジェクト実施のため、さらなる取り組みの推進を期待します。

**◆成果に関するアドバイス**

・この施業地は手入れの遅れた林分のため、目標林型として設定した複層林へと誘導するためには、どのような手入れを行い、どのような森林を目指していくのかを一層明確にして下さい。
・長伐期施業では、樹冠長が3割以上ある立木を残すことが必要です。また間伐効果を出すため、周りの木を伐るという間伐の基本を徹底して下さい。
・表層土壌がかなり薄い状態にあり、早期に下層植生を回復して土壌の流出を抑制する必要があります。まずは林内に光が届くような間伐に取り組んでください。
・盛り土の土羽尻は残置された枝条が障害となり地山にきちんと擦り付いていません。放置すると路体崩壊に繋がるため速やかに改善して下さい。
・路体材料の赤土は、降雨時等は表面が滑りやすくなるため危険です。このため作業実施中は、排水処理よりも安全な作業の確保を重視し、作業道の横断勾配を水平保持するよう、引き続き配慮して下さい。
・経験上、礫を沢山含む土質は必ず路肩部分が完成時よりも沈下しますので、少し谷側を高く、或いは水平に仕上げることを推奨します。
・表層土壌の流出が激しいことから、樹冠をもっと疎にして下層植生を繁茂させ、速やかに土壌の流出を抑制する必要があります。しかし、機械的に3残1伐で伐採列を設定して列状間伐を実施しているため、間伐の目的を十分に達成できていません。スイングヤーダのために間伐をするのではなく、森林を守るために間伐することを理解して下さい。
・列状間伐では、少なくとも胸高断面積の大きな木を残すような伐採列を設定するとともに、残った残列部分からも列状間伐によって出来た列（空間）を使って不良木等を出材するようにしてください。
・施業地に数多くの雪害木が確認されました。これらを残置しても上方部から腐朽が進行するため、使用可能な元玉部分を中心に早期の収穫に務めて下さい。ただし、全ての被害木を伐採してしまうと林内に大きな空間が発生してしまうことから、必要に応じて植栽も検討して下さい。
・需要に即応できるとも今後の生長も見込める道際の残存木への損傷の多さが気になります。商品としての価値が落ちるため、保護具を使用するなどして損傷を減らすように心がけてください。

**◆効率性に関するアドバイス**

・該当無し（特段の言及無し）

**◆妥当性に関するアドバイス**

・人工林であっても、採算条件の厳しい箇所は環境林的な管理を考えているとの説明でしたが、今後も森林所有者の意向を十分に確認しつつ、森林づくりを進めてください。

**◆発展性に関するアドバイス**

・今後、濁度調査を実施する際には、出水時における河川の濁りを確認して下さい。これにより林分内の改善処置を施すべき箇所が特定できます。この施業地でチョコレート色の濁りが確認された場合は、降雨により表層土壌が流出していると思慮されます。このままでは表層土壌に存在する微生物の生活も困難となり、一層、表層土壌の流出が激しくなることが危惧されますので注意して下さい。
・今後は全体の地図を見て、森林整備に着手する順序や路網配置、効率的な作業システムの構築等を考えることが必要です。まずは尾根部を中心にタワーヤーダーを使う林業専用道を整備するなど、マクロ的な視点からの戦略的な森林づくりに取り組んでください。

**◆総括に関するアドバイス**

・施業地の面的集約化が進展すると、効率的な施業が可能になる反面、下流域に及ぼす影響も大きくなります。こうした点についても良く考え、様々な方面から森林づくりについて考えて下さい。

**◆フォローアップ委員会の開催状況**　　平成22年12月20日

日　　時：　平成22年10月29日（金）
場　　所：　山県市円原地内
参加委員：　三島 喜八郎　岐阜県森林組合連合会　代表理事副会長
　　篠田 成郎　岐阜大学総合情報メディアセンター　教授
　　湯浅 勲　日吉町森林組合理事兼参事
対　　象：　円原森林づくりプロジェクト共同体（岐阜中央森林組合／（株）遠藤造林）

プロジェクトの概要説明

地形に沿って開設された作業道

急傾斜地に植林されたヒノキ（薄い表層土壌、短い樹冠長）

土壌観察の結果から、選木・間伐の考え方をフォローアップ

土羽尻の整形を阻害する残置枝条

長伐期施業には不適当と指摘された選木（曲がり木）

作業道開設に伴う崩土により損傷した残存木

搬出作業により損傷した残存木

H22健全で豊かな森林づくりプロジェクト　フォローアップ委員会
委員長　　三島　喜八郎